

学生時代の「貯金」

早稲田大学ナノプロセス研究所 高田 光子

先日、名古屋で行われた化学工学会年会に参加しました。7年前、私が学部生で初めて化学工学会の年会に参加したときは、会場内で女性に出会うことは滅多にないという状態でしたが、現在は化学工学会での女性の割合もかなり増えてきたなぁと感じ嬉しい限りでした。

私は現在、早稲田大学で助手をしています。学生時代には、学部時代、修士課程、博士後期課程と一貫して、化学工学の材料プロセス工学研究室に属し、高分子のプロセッシング、特に二酸化炭素によるポリマーの結晶化制御と発泡成形についての研究に従事してきました。現在は早稲田大学で、ゼオライト膜の結晶成長機構および膜透過分離機構の解明に関する研究を行っています。またそれだけでなく、研究室の様々なプロジェクトに関して、最適な分析方法を選択し、最新の分析機器を駆使して可能な限りシンプルにかつ厳密に評価する「分析科学」という立場から、いろいろと携わる機会を与えて頂いています。学生時代に得た知識や技術と現在新しく勉強中のものを融合させることで、自分の活動の幅を広げることができ、非常に充実した日々を送っています。はじめは、学生時代と異なる新しい分野に入ったことで、戸惑うことばかりだったのですが、周りの方々の多大なるご支援のもと、ここ最近ようやく新しい分野、環境を自分なりに楽しみつつ、なすべきこと、進むべき道を見出すことができるようになってきました。

私事ですが、去年は学位授与後、結婚、その後実家の祖父母の体調が悪化するという事態が起こったため、私を取り巻く環境が変化し、それに伴い生活形態も大きく変化しました。つい最近まで学生という身分で、自分の研究と自分の体調を中心に考えていた状態であったところにいきなり家庭をもった上、実家をサポートしなければならないという状態へと。世間では、様々な天災や人災、病気等に見舞われ人生の大きな方向転換を余儀なくされた方が大勢いらっしゃる中で、私の環境の変化など、本当に小さいことにすぎないのですが、こんな小さい環境の変化でも痛感したことは、「限られた時間をどれだけ有効に使えるか？」ということがいかに大切かということでした。今これを読んで下さっている女子学生さんに伝えたいことは、「比較的自分のことを中心に考えていられる」学生時代に、自分の可能性を追求し、色々な経験をして、自分の財産をできるだけ多く蓄えていってほしいということです。(もちろん、皆さん全員が自分のことを中心に考えていられる自由な学生時代を過ごせる状況でいらっしゃるわけではないと思いますが)そして、学生の皆さんには自分自身の「引き出し」をできるだけ多くつくってほしいです。これは、自分の人生の選択の幅を広げるということにもつながっていくことだと思います。長い人生を歩んでいく間には本当に何があるかわからない、あるいは少なくとも、全く予期しなかったことも起こり得るという一側面が人生にはある、ということが言えると思います。この点から考えると、人生を生き抜く上で、どんなことがあっても自分を見失わない「強さ」、そして予期しなかった事態から自分自身を守る「強さ」が必要不可欠である、ということが見えてくると思います。この「強さ」を支えるもの(つまり、裏打ちす

るもの)は、それまで自分が培ってきた能力と自信、そして決してあきらめない貪欲さと粘りだと、私は思います。ごくありきたりのことではありますが、どんなささいなことでも、貴重な体験と認識して真剣に取り組み、自分の中での理解を深く掘り下げ続けることが、「強さ」を培っていく上で非常に大切だと私は思っています。特に女性にとって、結婚、出産、親の介護等、人生を歩んでいく際、男性よりも「自分のための時間」を制限されることが多い、ということが実情として日本にはいまだに残っています。その「限られた時間」の中で、どこまで生活を豊かにしていけるか、自分に満足感を与えられるかということを私達は考えなければなりません(当然、体力や精神力は必ずしも無尽蔵にあるわけではない、ということも考慮に入れた上で)。そのように考えるとき、大きくものを言うのが、学生時代に培ってきた様々な経験や体験に他ならない、と私は思うのです。言うなれば、学生時代につくった「貯金」が、その後のどんな環境の変化に対しても、その都度その都度自分の生き方を見い出していく上での非常に重要な助け・指針となるはずだ、と最近の私は思っています。もちろん、人生日々勉強ですから、学生時代の「貯金」にばかり頼ってはいけませんが、自分の考え方、学び方の基盤となるものの多くは、学生時代にほぼ形作られるといっても過言ではないと思います。私がこのように思う(特に、学生時代がいかに大事であるか、という点に話を限定してしまう)のは、私自身が社会に出てからまだ2年足らずと、社会人になってからの日がまだ浅いからかもしれませんが。しかし、同様の考え方は、社会人としての日々の過ごし方にも十分通用するはずだ、と私は信じています。

今の私にとって、「仕事の時間」は唯一「自分自身のために使える時間」であり、そのため自分自身が生きていくのに欠かせない大切な時間となっています。だからこそ、何らかのかたちで「楽しむ」という感覚を忘れないようにしています。そして限られた時間で最大限自分の能力を發揮できるように日々努力を重ね、そしてその経験を自分自身の中に「貯金」していくようにしています。自分自身がいつでも自由自在に使える「財産」になるように...



高田 光子 (たかだ みつこ)氏

早稲田大学ナノプロセス研究所 助手

博士(工学)

(最終学歴:京都大学大学院工学研究科
化学工学専攻 博士後期課程修了)

e-mail address: mtakada@aoni.waseda.jp